令和６年度　第３回北海道高等学校選抜登山大会　ペーパーテスト問題

１．美瑛岳コース概況について、以下の文を読んで問に答えよ。

望岳台からは、十勝岳連峰を見渡すことができる。南から富良野岳、三峰山、上富良野岳、(ア)山、十勝岳、(イ)岳、美瑛富士、石垣山、ベベツ岳、(ウ)山とつづく山容は壮観である。

登山道は、火山灰と火山れきの緩やかで平坦な斜面が続くが、死者･行方不明者 144 名を出した 1926 年 5 月 24 日の噴火時の大規模な泥流のあとでもある。 植生は少しずつ回復しており、ハイマツ･ミヤマハンノキ、６月から８月にかけては、イソツツジ、 マルバシモツケ、 ウラジロタデ、シラタマノキ、イワブクロなどの高山植物もところどころに見られる。

十勝岳避難小屋の直下の 1258m にある分岐を東に進み小さな(エ)沢を渡り尾根を少し登ると、雲ノ平の(オ)となる。植生は豊かで、前出のものはもちろん、メアカンキンバイ、ミヤマキンバイ、ミネヤナギ、クロウスゴ、コケモモ、エゾノツガザクラ、アオノツガザクラ、ミネズオウ、イワウメなど時期によって多くの高山植物が見られる。また、ナキウサギ、キタキツネ、ギンザンマシコなども見ることができるかもしれないが、ヒグマにも注意を払おう。

雲ノ平は十勝岳の(カ)火口、昭和火口などの中腹の斜面で、 1500m の高度を保ちながら十勝岳を回り込む。斜面の奥からは(キ)火口をもつ美瑛岳が姿を現す。火口から続く沢にある勝瑛ノ滝は落差が 20m あり(ク)川へ下る。雲ノ平の終わりには、その支流である函状の沢がある。この沢は深くえぐれており、沢底まで鉄製のハシゴが設置されているが慎重に通過してほしい。沢を登りきり右手にエゾコザクラなどのお花畑を見ながら少し下ると、よい水場でもある(ケ)沢となる。ここで一息入れ、沢を渡ると崖混じりの急登が待っている。ミヤマハンノキやウコンウツギ、ウラジロナナカマド、タカネナナカマドなどのかん木の斜面である。登り切ると平坦となりしばらく進むと視界が広がり美瑛富士との分岐に出る。この沢地形には遅くまで雪渓が残る。

分岐を(コ)に折れ主稜線に取り付く。ここからは一気に高山帯となり、雪渓が溶けたあとから次々と高山植物が咲くお花畑が頂上まで続く。前出以外では、コメバツガザクラ、ジムカデ、イワヒゲ、イワブクロ、キバナシャクナゲ、コガネギク、初秋にはエゾオヤマノリンドウなどが咲き誇る。登山道からは、右手に雲ノ平と函状の沢、火口越しに十勝岳の豪壮な姿が眺望できる。山頂は火口の一角にあり、赤茶けた火山れきの深くえぐられた斜面でかなりの高度感がある。この先は十勝岳への縦走路となり、途中(サ)に下ると美瑛富士とのコルへと続き、美瑛富士避難小屋から(ウ)山への縦走路となる。

美瑛岳は十勝岳連峰のほぼ中央に位置することもあって展望は素晴らしい。南西方向は、火口越しに木々も全くない活火山である荒々しい十勝岳、その右奥には富良野岳、さらに奥には芦別岳の(シ)山地がある。十勝岳の左には独立峰のような(ス)山、さらにそのはるか向こうには、今年新たに国立公園に指定された(セ)山脈がある。北東方向には、アイヌ語で「槍がそこにそり立っている山」という意味をもつ(ウ)山、右奥には百名山の(ソ)山、左奥には大雪山系主峰旭岳をはじめとする山々を望むことができる。

問１．(ア)～(ソ)に適当な語句を下の語群より選び、番号で答えよ。

(1)オプタテシケ	(2)トムラウシ	(3)ニペソツ	(4)下ホロカメットク	(5)上ホロカメットク
(6)ポンピ	(7)アバレ	(8)スリバチ	(9)トレース	(10)トラバース
(11)十勝	(12)幌尻	(13)日高	(14)石狩	(15)夕張
(16)大正	(17)天塩	(18)空知	(19)右	(20)左
(21)爆裂	(22)利尻	(23)６２－Ⅱ	(24)硫黄	(25)美瑛

問2．現在も活発に火山活動する十勝岳の噴火警戒レベルを1～5の数字で答えよ。

問3．以下の植物は文中に出てくる植物のいずれかである。文中の名称で答えよ。

1）

2）

3）

4）

２．　登山と気象知識

問１　雲の種類について、次の文章に適する語を語群から選び記号で答えなさい。

①一般的には、晴天時に観測される綿状の雲。夏の日中に発生して夕方消える時は、翌日も晴天が多い。綿雲ともよばれる。

②夏の日射が強いときなどに急速に発達し、雷雨や突風などをともなうので注意が必要である。入道雲ともよばれる。

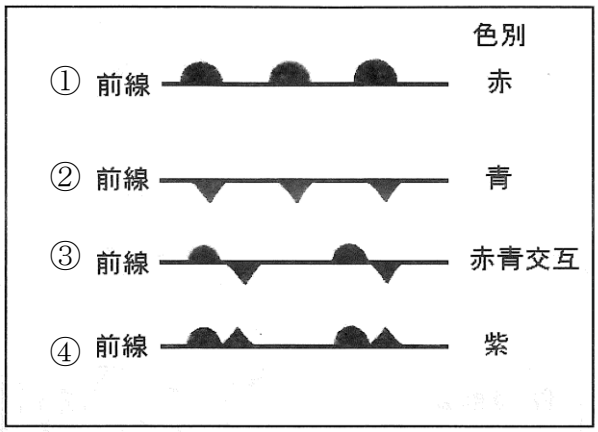
③層状に厚く広がる暗灰色の雲で、雲の下から見ると暗く太陽が透けて見えることはない。本格的に雨や雪を降らせる。

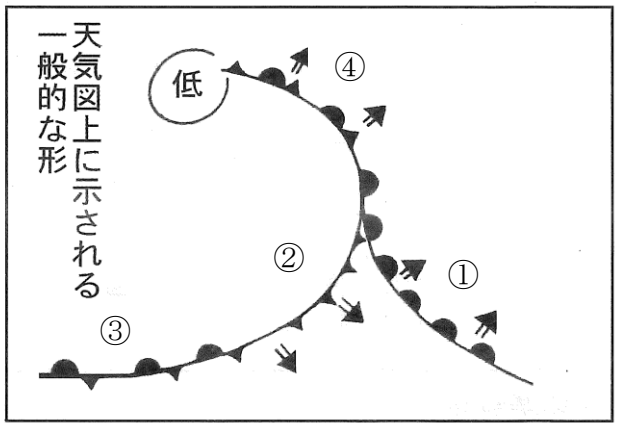
④高い空一面を絹の薄い白ベールでおおったような雲で、存在に気づきにくいことも多い。太陽や月の周りに輪が見えるのが特徴である。

語群

ア.巻雲　　イ.乱層雲　　ウ.積雲　　エ.巻層雲　　オ.積乱雲

問２　下の図において①～⑩に適する前線を語群から選び記号で答えなさい。





前線とその種類および記号

⑤日本付近では６～７月にできる梅雨前線が代表的である。

⑥接近すると雄大積雲や積乱雲が発生して雷鳴を聞くことがある。

⑦この前線ができると、その低気圧は衰弱に向かう。

⑧暖気団の勢力が強く寒気団の上にのし上がって進み上昇気流となって雲を発生させ雨を降らせる。

⑨一般に低気圧の東または南東にのびる。

⑩雷や突風をともなうこともあり、時にはひょうやあられを降らせる。

語群

ア.温暖前線　　イ.寒冷前線　　ウ.閉塞前線　　エ.停滞前線

問３　次の気象情報を書きなさい。

風向：南西　　風力：８　　天気：雨強し　　気圧：1018hPa　　気温：２５℃

３　救急医療について次の問いに答えなさい。

問１　捻挫や打撲した場合の処置法としてＲＩＣＥ法がある。「R」「Ｉ」「C」「E」それぞれの意味はどれか。語群から選んで記号で答えなさい。

語群

ア.冷やす　　イ.温める　　ウ.心臓より高くする　　エ.食べる　　オ.圧迫する
カ.洗浄する　　キ.水分を補給する　　ク.安静にする

問２　次の文が正しければ○、間違っていれば×で答えなさい。

①登山中に傷病が発生した場合は、まず最初に救助要請を行う。
②低体温症の処置として加温する場合は、手や足を優先して温める。
③深く大きい傷への処置は、洗浄より止血が優先である。
④骨折なのか、捻挫なのか、打撲なのか判断することが難しいときは、まずは打撲として対応する。
⑤低体温症の処置ではお湯を飲んだだけでは体温が上がらないため、食べることが大事である。
⑥捻挫の処置において、過度の冷却は、患部の血液循環を悪化させたり凍傷を起こすことがある。
⑦暑い環境での運動で「たちくらみ」「めまい」または「吐き気」「頭痛」は熱中症の疑いがある。
⑧やけどの処置は、出来るかぎり長く冷やし続けることが大切である。
⑨低体温症とは、脳や内臓(深部体温)が 35℃以下になった状態である。
⑩「震え」は低体温症の重度の症状であり、すぐに意識がなくなる恐れがある。
⑪低体温症において、体温を下げない４箇条は「食べる」「隔離」「保温」「加温」である。
⑫衣類を着たままやけどした場合は、急いで脱がせずに衣類に水をかけて温度を下げる。

４　次の文に適する登山用語を語群から選び記号で答えなさい。

（１）足を踏み外したりバランスを崩したりして斜面を滑り落ちること。
（２）雲の動きや風の吹き方などの気象現象を観察して天候の推移を予測すること。
（３）山頂から次の山頂へと尾根伝いに歩く登山形式のこと。
（４）川や沢を対岸に渡ること。
（５）踏み跡。また踏み跡をたどること。
（６）山頂や登山道などに道しるべとして石をピラミッド型に積み上げたもの。
（７）荷物を一時置いておくこと。冬山用の食料などを雪が無いうちに運びあげ、山小屋などに保管しておくこと。
（８）膝から下を振り子のように振って靴をつま先から雪に食い込ませ足場を作りながら登る歩き方。
（９）テントを用いないで、ツェルトや岩陰などを利用し野宿すること。
（１０）吹雪や濃霧で視界がまったく効かなくなり、地面と空との境界もわからなくなってしまう状態。

語群

A.リッジ　　B.藪こぎ　　C.ホールド　　D.ビバーク　　E.デポ　　F.乗越し
G.キックステップ　　H.高巻き　　J.徒渉　　K.トラバース　　M.トレース　　P.ルンゼ
Q.ホワイトアウト　　R.ハング　　S.設営　　T.カール　　V.ケルン　　W.縦走
X.観天望気　　Y.集中登山　　Z.滑落